

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		タベのコンサート事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 8年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-10 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 8月の土曜日の夜（午後6時から2時間程度）に、合計3回コンサートを開催する。舞台の設営や音響・照明は業者に委託し、当日の受付や舞台配置などの運営は出演サークル主体の実行委員会が行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
毎年出演団体が固定化している。また、各団体のメンバーが高齢化してきているため、新規団体が出演するようPRする必要がある。 来場者が固定化しており、来場者数も伸びがないことから、集客が見込める人気のあるプロを招聘したり、演出に工夫が必要である。	2月上旬 第1回運営委員会 4月上旬 参加団体募集 5月上旬 ステージ設置業者入札 6月上旬 第2回運営委員会 7月中旬 実行委員会 実施日 (3回) 8月22日 中庭 8月29日 庁舎内ロビー 9月5日 中庭 11月上旬 反省会
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
周知方法を、これまでの広報、ホームページ、ポスターに加えて、SNSなども積極的に活用する。 コンサート後に行っているアンケートに基づき、人気のあるプロに出演を依頼する。 会場が市役所ロビー以外になった場合の運営の方法や、集客の工夫を講じる必要がある。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	会場が市役所ロビー等から中央公民館ホールで実施することで、会場設置にかかる委託料の大幅な減額ができる。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
広報紙等で市内音楽サークル等出演団体の募集を行った。さまざまなジャンルの音楽や幅広い年代の音楽を提供するため、市内企業や守谷高校等に出演を呼びかけた。	新型コロナウイルス感染症のためコンサートの実施ができなかった。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
出演団体数（組）	17.00	15.00	18.00	15.00	14.00	0.00	0.00
来場者数（人）	844.00	549.00	676.00	588.00	648.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナウイルス感染症のためコンサートを中止にしたため。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☒ 統合 ☐ 廃止・終了	令和3年度から「芸術文化振興事業」へ統合される3事業 ①タベのコンサート ②芸術祭 ③美術作家展 「芸術文化振興事業」の一事業として事業を統合し、名称を「もりやNATSUのコンサート」に改める。 課題である出演者の高齢化については、準備等の作業の負担が軽減できるよう、会場を中央公民館ホールに移し、より音楽鑑賞に適した環境で実施する。若年層にも楽しめるコンサートに向けて、出演					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	1,302	1,230	0	2,424	2,424
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,302	1,230	0	2,424	2,424
正職員人工数（時間数）		366.00	386.00	64.00	801.00	0.00
正職員人件費		1,528	1,584	259	3,099	0
トータルコスト		2,830	2,814	259	5,523	2,424

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		成人式事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和39年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-22 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
新成人を祝い、励ますとともに、大人の社会に仲間入りすることを自覚し、郷土への関心を深める機会とするため、毎年開催している。	新成人者による運営協力委員会を組織し、式典の運営や準備を行政と協働で進める。 会場設営を委託し、守谷駅から会場（常総運動公園総合体育館）まで送迎バス（往復2便）を運行。 〔開催日等〕 令和3年1月10日（日） 〔対象者〕 平成12年4月2日～平成13年4月1日生まれの方 ※対象者数718名、内出席者数453名 〔内容〕 第1部：成人式典、第2部：運営協力員主催イベント
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
新成人者を対象に、人生の節目を記念して成人式を実施し、次代の担い手として今後の活躍を願い祝福する。 祝福を受けることで、成人としての自覚を持ってもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
昨年から、開催場所を常総運動公園総合体育館に変更したことで収容人数の問題は解決された。 今後は、成人年齢引き下げによる令和4年度の成人式実施に向けて、開催時期・方法等の検討が必要となる。	令和2年成人式典 対象者664人（11月1日現在） 令和2年1月10日（金） 会場設営 令和2年1月11日（土） リハーサル 令和2年1月12日（日） 成人式
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
成人式運営協力員へのアンケート調査や、国から発信される方向性をもとに検討し、令和2年度中に、成人年齢引き下げによる成人式開催方針を決定する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	新型コロナウイルス感染防止のための対策を講じながら開催する。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
新成人による運営協力員を中心に、式典、イベントの2部構成で実施した。 平成31年から会場を常総運動公園総合体育館に変更しており、収容人数に対する課題解決を図れたことに加えて、保護者等に観覧席で参観していただけるよう、案内状等で積極的に周知した。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、検温や消毒はもちろんのこと、マスク着用、中学校ごとの時間差での受付など、感染症対策を行った上で、式典の時間を短縮して実施した。 新成人の中から選ばれた運営協力員が企画・運営し、事前準備、当日の受付や司会進行、会場内の誘導なども新成人自らが行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
新成人に対する参加者の割合（％）	70.00	73.56	70.85	67.00	84.50	63.10	64.00
式典参加者数（人）	473.00	501.00	508.00	473.00	583.00	453.00	445.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	近隣の市町村が開催の中止・延期をする中での開催となり、例年よりやや少ない参加者数となったが、大きな事故もなく無事に実施することができた。 当日の運営は、警察等関係機関から協力及び運営協力員の尽力により円滑に進行することができた。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	民法の一部を改正する法律により、令和4年4月1日から民法の定める成年年齢が18歳に引き下げられることに伴い、社会教育委員の会議から「成年年齢の引き下げに伴う成人式の対象年齢に関する提言書」が提出され、教育委員会の承認を経て、守谷市は、令和4年度（令和5年1月開催）以降も従来通り20歳の方を対象として式典を実施する。						

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	1,922	2,100	2,151	2,906	2,906
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,922	2,100	2,151	2,906	2,906
正職員人工数（時間数）		546.00	167.00	743.00	743.00	0.00
正職員人件費		2,280	685	3,008	2,875	0
トータルコスト		4,202	2,785	5,159	5,781	2,906

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		公民館運営管理事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和56年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100404-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民のコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため、昭和56年に中央公民館、平成4年に郷州公民館、平成8年に高野公民館、平成11年に北守谷公民館を開館した。 平成24年度からは指定管理者制度を導入し、民間事業者が有するノウハウを活用した施設の管理運営を開始した。	指定管理者による施設の管理運営を行うとともに、適正かつ確実なサービスが提供されているか、サービスの安定的・継続的な提供が可能な状態にあるかなどを確認する月次報告に加え、現地調査、管理運営状況の評価等を行うモニタリングを実施し、必要に応じて改善に向けた指導・助言を行う。 令和2年度は、郷州公民館の長寿命化に向けて、劣化度調査を行い、施設・設備等改修箇所の優先順位を把握する。 〔指定管理者〕アクティオ株式会社・守谷市シルバー人材センター共同事業体 〔今期指定期間〕令和2年4月1日～令和7年3月31日 5年間
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
多様化・高度化する市民の学習ニーズに対し、幅広い年齢層に学習機会の提供を行い、利用者が安全で快適に学習活動や趣味活動等ができる場所を提供する。 指定管理者による管理運営により、市民ニーズに効果的、効率的に対応し、民間能力の活用とサービス向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
法定点検で指摘された事項は、その都度、改善しなければならない。郷州、高野、北守谷公民館において老朽化に伴う設備不良が年々増加しているため、修繕等だけではなく、更新に関わる今後の方針を明確にする必要がある。 指定管理者による管理・運営に対する適切な評価、また、更なるサービス向上を図るため、市が利用者の声を聴き、現状を把握する必要がある。	令和元年10月 施設不良箇所調査 ・公民館長にヒアリング ・現地確認 令和元年年11月中旬 次年度修繕計画（優先順位決定） 平成2年2月 利用者アンケート実施 令和2年3月末 アンケートまとめ 令和2年6月末 令和元年度指定管理者評価完了 令和2年度通年 計画的な施設維持管理（修繕含む）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	【中央公民館改修事業】 令和2年3月 改修工事終了 令和2年4月 備品購入等利用開始準備 令和2年4月下旬 施設利用開始
郷州・高野・北守谷公民館における実施計画に沿って、建物及び設備の保全を進めていくと同時に、特殊建築物定期調査報告の指摘事項を精査するなど、改善計画を作成し適切に施設整備事業を進めていく。 中央公民館改修後の設備等変更を踏まえて、必要な設備点検を考慮した指定管理料を算定する。 指定管理者と協議をし、令和2年度から5年間の基本協定書を作成するとともに、運営管理にかかる評価基準等を明確にする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	新型コロナウイルス感染防止のため、消毒用アルコール等の消耗品が増額になるが、大きな工事等の経費はなく、前年並みの事業費となる。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
各公民館における施設・整備の修繕や法定点検の指摘事項の改善を行った。指定管理者と担当者と月次ミーティングにより、利用者を増やす検討やサービスの質の向上のため検討し、指定管理者と協働で館運営することができた。 中央公民館については、改修工事が終了し、4月下旬から施設の利用開始に向けて準備ができた。	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の対面式講座が思うようにできない状況にあったが、ニーズが高く人気のある講座を、募集定員の縮小、時間制限等により実施した。 感染拡大市町村に指定され、休館となった時期に、料理教室、音楽コンサート、館内展示物等のYouTube配信、フェイスブックによる情報発信を行い、新たな学びの機会を提供するきっかけとなった。 中央公民館は、ホールの音響設備や映像機器の更新、オペレーター（機材操作者）の配置等により、本格的な音楽コンサートや映画会の開催にも利用できる環境となった。また、市民の文化芸術活動を応援するため、部屋の空き状況に応じて個人でも使用できるようになった

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
延べ利用者数（4館）（人）	203, 184. 00	209, 343. 00	207, 315. 00	200, 598. 00	141, 892. 00	74, 083. 00	0. 00
公民館講座に満足している参加者の割合（％）	96. 90	0. 00	96. 70	96. 10	95. 90	96. 70	0. 00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	緊急事態宣言期間に休館し、貸出を中止したため利用者数が減少した。 対面式講座に加えて、感染状況が落ち着いた時期に中央公民館ホールで開催した音楽コンサートの参加者にアンケートを行った結果、満足度は高かった。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	引き続き、指定管理者が提案した事業を支援する。また、定期的なモニタリング及び評価を行うとともに、その結果を利用者の満足度向上に結びつける必要がある。 オンライン講座を提供する一方で、市民が新しい学びの形を身につけることが必要なため、今後、オンラインでの会合や趣味・教養に関する活動ができるようWi-Fi環境の整備等により、更なる施設の利便性向上と市民が生涯学習に取り組む機会・場の提供に努める。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	119,040	102,708	114,654	127,622	138,700
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	547	223	531	557	557
	一般財源	118,493	102,485	114,123	127,065	138,143
正職員人工数（時間数）		410.00	286.00	752.00	752.00	752.00
正職員人件費		1,712	1,173	3,044	2,909	0
トータルコスト		120,752	103,881	117,698	130,531	138,700

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		図書館運営管理事業		担当課 中央図書館
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働
予算科目コード		01-100405-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市図書館等の設置及び管理に関する条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民の知的要求に応える学習拠点として、平成7年5月に開館した。 平成28年度から平成30年度まで指定管理者により運営し、令和元年度からは市直営による運営を再開した。	図書や電子資料の収集及び提供、A D E A C（デジタルアーカイブ）の公開により、幅広い図書や情報を提供する。 第三次守谷市子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会や子ども向けのイベントを開催するとともに、魅力ある図書を収集し、子ども達に届け、読書の楽しさを伝えることにより豊かな心を育む読書環境を整備する。 また、図書資料の団体貸出やブックトークを実施することにより、児童・生徒の学習活動を支援する。 ボランティアの育成と支援に継続的に取り組むとともに、講演会、講座及び行事の開催等により、市民の生涯にわたる学びを支える。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民が必要とする図書や情報をいつでも容易に取得できるよう、資料の充実を図る。 未来を担う子ども達が、読書に親しみ豊かな心を育むことができる読書環境の充実を図るとともに、学校との連携の下、児童・生徒の学習活動を支援する。 市民との協働の下、生涯にわたる学びを支える機会と場を提供する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、年度当初から時短開館を経ておよそか月間の休館となった。この自粛期間中、家庭で読書を楽しむことができるように、図書館員が選んだ本をセットにして利用者の玄関先まで資料を宅配する「図書館わくわく宅配本」を実施し、好評を得た。また休館中の利便性を図るため通常窓口で行っていた「守谷市電子図書館」利用手続きを、インターネットでIDを取得できるように改善。これにより、電子図書館のアクセス数が増え、貸出点数も大幅な伸びを見せている。 コロナ禍により制限のあるイベント等の実施が難しく、実績が大きく落ち込む可能性が高い。	12月 めいぐるみのおとまり会 図書館お楽しみ貸出 1月 保育所・幼稚園等へのブックバック貸出（試行） 3月 やさしい手話講座開催（ボランティアとの共催）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
集客数の多いイベント等の開催は自粛していくが、少数ながらも図書館の利用や資料に結び付く事業を展開していく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	令和2年度とほぼ同額で事業実施が可能であるため

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
中央公民館図書室が1年間休室していたことが起因し、新規登録者数、貸出点数（全館）、予約・リクエスト受付件数などの利用に関する数値が前年度より減少した。しかしながら、団体貸出は、前年度1,812冊に対し、令和元年度は、2,314冊となり、前年度の127.7%となった。また、電子図書館の利用においては、令和元年3月と平成30年3月を比較すると、コンテンツ閲覧数が198%、貸出数が272%となった。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止として、3密を避けながら少人数短時間の利用をお願いし、座席も減席するなど対策を行いながらの開館となった。休館中は予約の受付・受渡しや数量限定の宅配サービス「図書館わくわく宅配本」を実施することで、資料提供に努めた。また、電子図書館利用の際、インターネットでIDを取得できるよう利便性を向上させ、さらに6月に実施した図書館システム更新後は図書館と電子図書館のパスワードを共通のものとし、それまで中学生以上としていたパスワード発行の年齢制限を撤廃した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
市民一人当たり蔵書数（蔵書総数÷人口数）（点／人）	6.60	0.00	0.00	6.90	6.90	6.80	6.70
蔵書回転数（貸出総数÷蔵書総数）（回／点）	2.00	0.00	0.00	2.10	2.10	1.80	1.90
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	開館日及び開館時間がおおよそ20%減少したことにより、図書館の来館者数は39.3%、貸出数は12.3%、予約数は1%とそれぞれダウンしたが、電子図書館の利用は昨年度の3倍に増えた。 秋に実施した利用者アンケートの総合評価においても、「満足」が全体の60%以上、「満足」と「普通」の合計では96%以上となり、サービス全般においておおむね満足いただけている結果となっている。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	制約のある運営が続いているため、全体としては現状維持が見込まれる。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	187,635	100,408	114,470	123,700	123,700
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	31,641	30,129	207	172	172
	一般財源	155,994	70,279	114,263	123,528	123,528
正職員人工数（時間数）		3,221.00	10,697.00	11,029.00	11,000.00	11,000.00
正職員人件費		13,448	43,890	44,645	42,559	0
トータルコスト		201,083	144,298	159,115	166,259	123,700

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		学校図書館活動推進事業		担当課 中央図書館
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 令和元年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働
予算科目コード		01-100405-02 単独	根拠法令・条例等	学校図書館法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） ・読書センターとしての機能充実のため、図書館資料の活用が図られるよう、団体貸出や学校間相互協力を促進する。 ・学習センターとしての機能充実のため、学校図書館を活用した授業づくり等を実施できるよう、学校司書が資料提供やブックトーク等により授業支援を行う。 ・情報センターとしての機能充実のため、図書館の電子資料や情報を活用できるよう、中央図書館利用のためのガイダンスを実施する。 ・学校図書館担当職員が、司書教諭及び学校司書に対する研修等を実施し、専門性を向上させる。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
今年度行った蔵書点検で、全校適正な蔵書数が把握できた。今後の学校内での蔵書の管理体制を整え、適切な資料管理を教諭にも浸透させる必要がある。 学校図書館の有用性について、学校によって理解度に差がある。教諭の異動もあり、理解度が年度切り替えによりリセットされる。 学校によって学校図書館の児童生徒の利用にばらつきがある。 中学生の読書率が低い。中学校に進学すると、読書率が大きく下がる。	通年 実施事業をホームページ等で積極的に紹介 12月 学校司書連絡調整会議 3月 学校司書連絡調整会議（次年度） 4月 学校司書連絡調整会議 中学生版ブックバック運用開始 6月 学校図書館研修実施（対象：小中学校教諭） 本の帯コンテスト実施 7月 小学生1日司書体験 8月 市内小中学校蔵書点検実施 10月 中学生ビブリオバトル大会
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
学校図書館の活動内容や資料管理等、積極的に学校へアピールし、あわせて研修を実施する。 学校司書の研修を進め、学校図書館運営のサポートを継続して行う。 児童生徒が利用しやすい学校図書館環境を整え、適切な資料管理を行う一環として、蔵書点検を年1回実施していく。 令和3年度から中学生版ブックバックを導入する。中学生の興味が出るような資料を選書する。 市民に対しても、学校図書館をアピールしていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	令和2年度とほぼ同額で事業実施が可能であるため

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
学校図書館の貸出数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による休校のため、3月の貸出ができなかったが、昨年度と比べ118.9%増加した。団体貸出は126.4%増加。ブックトークは平成30年度は実施日数7日、実施回数11回に対し、令和元年度は実施日数15日、実施回数25回と、回数・日数共に倍以上の伸びを見せた。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による休校の影響や、学校が再開以降も学校図書室の使用や貸出に感染症防止策が講じられることが予想され、結果貸出数の減少が見込まれるが、ブックトーク・団体貸出等の学習支援についても依頼に対応できる体制の強化を図る。	夏季休業期間中に市内の小・中学校全校の蔵書点検を実施した。学校休業再開後は、学校司書の懸案事項に対応しながら、各学校に応じた対策案を中央図書館から提示した。 学校からの依頼を受け、ブックトークを行ったが、感染拡大状況によって、Zoomを使って実施した学校もあった。 校舎改修工事がある小学校図書室には指導・アドバイスを行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
貸出点数（点）	123,965.00	0.00	0.00	136,735.00	162,665.00	187,897.00	160,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う2か月の学校休業にも関わらず、小中学校共に貸出数が前年度比115.5%となった。教諭や学校司書が積極的に図書室への利用を促した結果、貸出数の増加につながった。また、改修工事を行った学校では、新しい図書室になったことも利用の増加に寄与している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	新型コロナウイルス感染症による影響が不明であるが、全体としては現状維持が見込まれる。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	0	16,979	22,050	23,683	23,683
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	0	16,979	22,050	23,683	23,683
正職員人工数（時間数）		0.00	1,396.00	1,354.00	1,360.00	1,360.00
正職員人件費		0	5,728	5,481	5,262	0
トータルコスト		0	22,707	27,531	28,945	23,683